

2019年1月の行事予定表

1	火	元旦礼拝式(午前 11 時)	16	水	聖書の学びと祈り会
2	水		17	木	祈禱会(証し会)
3	木		18	金	朝の祈り会
4	金		19	土	
5	土		20	日	伝道礼拝式、各会の例会日
6	日	新年礼拝式、聖餐式、教会役員会	21	月	
7	月		22	火	教団・年会評議会
8	火		23	水	// 聖書の学びと祈り会
9	水	聖書の学びと祈り会	24	木	祈禱会
10	木	祈禱会	25	金	朝の祈り会
11	金	朝の祈り会	26	土	
12	土		27	日	礼拝式、各部会
13	日	礼拝式、教会役員会	28	月	
14	月		29	火	
15	火		30	水	聖書の学びと祈り会
			31	木	祈禱会

1月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

教会生活では、一年のスタートが待降節(アドベント)なので、イエス・キリストのお誕生を待ち望み、お祝いすることが生活の大切な区切りになっています。

- ◇ ことし11月には、私たちの教会堂ができて 40 周年のお祝いをしました。編集子は当時の方々を存じ上げないのですが、皆さまの篤い信仰を受け継ぐひとりでありたいと願います。
- ◇ これまでとこれからの大小の区切りを一里塚に、いつも変わらずイエス様が共にいてくださったし、これからも共にしてくださる安心感に包まれて 2019 年のカレンダーを手にはしています。
- ◇ この一年も、月報のために皆さまのお祈りとご協力を山ほどいただき、編集部一同3名、心から感謝申し上げます。

教会月報

2019年1月
No.332

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

希望の源である神

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満ちし、聖霊の力によって希望に満ち溢れさせてくださいますように。」

ローマの信徒への手紙 15章 13節

新年明けましておめでとうございます。
本年も主にあって宜しくお願い致します。

さて、昨年 2018 年を表す言葉に「災」があげられました。世界的にも干ばつと豪雨が襲い、山火事や火山噴火等火山活動が盛んであります。日本列島でも熱波が襲い、記録的な暑さに見舞われました。また、集中豪雨等により思いもかけないようなところで水害(人災の面もあったのでしょう)が起こりました。比較的災害に遭わない地方として安心していたきらいのある岡山県でも倉敷、真備町の小田川決壊による未曾有の水害で多くの被災者を出しました。いまだに復旧作業にいそまれる方々の上に神の支えと導きを祈る次第です。私たちの教会でも尾崎姉妹のお姉さまが被災されました。真備町での生活が復旧されますよう祈ります。

世界中でも自国中心主義の台頭により、政治的・経済的・社会的な面で不確実性が高まっているといわれます。このような時代であるからこそ。私たちは足を確かな地につけて歩まなければなりません。それはひとえに聖書に基盤を置くことにほかなりません。聖書は語ります。信仰者は誰であっても差別してはならないと。ユダヤ人であろうと異邦人であろうと全ての人間は神の子であると。人には強いタイプとあれば弱いタイプも存在する。どちらであってもお互いを受け入れあうことが大切であるとパウロは力説するのです。その根拠はイエス・キリストに見いだされます。とりわけ信仰者は相互に受け入れあう存在でなければなりません。その結果、神に栄光を帰することが可能となるからであります。

牧師 永松 清

Merry Christmas

はじめて岡山市民クリスマスに参加して

K.O.姉

今年の岡山市民クリスマス（12月9日）のゲストである山本真一郎先生のメッセージは、これまで持っていたクリスマス観に新しい視点を加えてくださった。それは、クリスマスは喜ばしい日のみならず、悲しみも伴っているということである。先生から語られる言葉を通じて、クリスマスはイエスキリストの誕生を祝う日であることに加えて、何故キリストが地上に人として生まれることになったのかを考えつつ、自身の罪を改めて悔い改める日でもあることに気付かされた。メッセージの中ではヨハネの福音書3章16節（編注：『神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』）が引用され、愛と罪について教えられた。私たちは、善行を積み重ねたとしても罪からは解放されない。しかし、神はキリストを地上に送ることで罪の奴隷となった私たちを開放し、本当の意味での自由を与えてくださった。独り子であるキリストを神が世にお与えになったことの動機はギブアンドテイクではなく、人間に対する最上級レベルの一方的な愛ゆえである、と。

神様の愛は非常に大きく、重たく、どれだけ両手を広げてもすべてを受け取ることのできる自信がない。これまで積んできた罪の重たさや事の大きさを知れば知るほど素直に愛を受け取れない自分がある。しかし、神様は私が何を思おうが関係なく手を差し伸べてくださっており、私が神様の愛に応える時を待ってくださっている。そのことを決して忘れることなく心に留め続けたい。



12月23日。天気予報では雨ということでしたが、日差しも感じたいいスタートでした。

33人の礼拝出席者と共に静かに礼拝の時を待ちました。聖歌隊の特別賛美(写真①は祝会時)、永松先生の説教より「インマヌエル」から本当のクリスマスの意味を解き明かしていただき、聖餐にも与かりました。

恒例の写真撮影を済ませて、洋風のお弁当にF兄のお手製のポテトサラダをプラスしてのランチを楽しみました。事前のタイムスケジュールの浸透と段取りの良さからか、時間にゆとりを持って、岡山理科大学のクリスタルコールをはじめ、来会者をお迎えすることができました。

教会学校代表のYくんの開会の挨拶(写真②)をもって祝会が始まりました。D兄のお祈り、Sちゃんの幼児祝福式、クリスタルコールのファーストステージ(写真③)と続き、O姉、F姉のバイオリン二重奏(写真④)で空気が張り詰め、一変しその調べの美しさに魅了されました。

いよいよ後半に入り女性会の「よきおとずれ」の賛美(写真⑤)にうっとりとしたところで、ページェント朗読劇「アルタバンの旅」はぶっつけ本番でのキャストで素晴らしい物語に仕上がりました。

セカンドステージのクリスタルコールのあとお楽しみのサンタタイムでは、司会のF兄のサンタクロース大変身に皆さん大いに驚きと笑いに包まれました。55名の出席者が皆心満たされた時を共にした会の総合プロデューサーのF姉はじめご奉仕に当たってくださった方々に感謝します。

また24日クリスマスイブのキャンドルサービスは厳かなろうそくの灯火のもと礼拝を持ちました。16名の参加でした。

クリスマスおめでとうございます！
 「今日ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。いと高き所には栄光、神にあれば地には平和 御心に適う人にあれ。」ルカ 2:11, 14
 今年も日本で世界で悲しい出来事がたくさんありました。ぼくたちは救い主イエス様を信じる子どもとして、イエス様の愛、あわれみの心、希望を伝えたいと思います。光の子として共に歩いていけますようお祈り下さい。どうぞ最後までお楽しみください。
 2018年12月23日 教会学校代表
 Y.Y 君(小学1年生)



ご報告
 12月9日(日) 礼拝後、故・O姉妹の納骨式が行なわれました。
 12月16日(日) 礼拝後、故・S姉妹の召天一周年記念会行われました。

